



ふみお
坂梨文男さん
81歳、今町



民謡自主講座の様子

今月は、民謡「阿蘇干草切唄」^{あそほくきくまりうた}を発掘し、その唄で全国大会へ挑む坂梨文男さんをご紹介します。

坂梨さんは、民謡の自主講座の講師で、生涯学習講座から合わせて23年間指導を続けています。

坂梨さんが民謡を始めたいきっかけは、初めて仲人をした時。祝い唄の披露をせまられ、「今後もこのようなことがあるのなら上手く披露したい」と練習を始めました。

そして歌うにつれ日本各地の情景や人々を歌う民謡の魅力を知ることになりました。坂梨さんは81歳と思えぬ声質と声量で今もなお更なる上達を

目指し歌い続け、また、文化祭や各種行事にも生徒さんらと意欲的に参加し、地域の文化振興にも大いに貢献されています。

「阿蘇干草切唄」の掘り起し

坂梨さんは80年ほど前に当時山師をしていた石的坂梨マサオさんがよく唄われていたこの地だけに伝わる「阿蘇干草切唄」を歌い継ぎたいと懸命に発掘に取り組みました。見つけ出されたこの唄は今、自主講座で紹介し徐々に親しまれつつあります。

坂梨さんは、「阿蘇干草切唄」は昔の阿蘇の農耕の様子、阿蘇の景観が偲ばれる唄であると、この度の全国民謡大会熊本県予選で披露。高年の部で見事優勝をされ、全国大会への切符を手にされました。

両国国技館で「阿蘇の情景」思い歌う

坂梨さんは熊本県代表として、10月16日、東京都両国国技館で開催される日本民謡協会主催「平成20年度民謡民舞全国大会」に出場します。広い国技館の真ん

中で堂々と、まだ世に知られていない「阿蘇干草切唄」が響き渡ります。

坂梨さんはこれまでに同全国大会に2度出場した経験をお持ちです。ですが今回は、「阿蘇の唄を歌うということでの出場の意義がもう一つ加わった」と言われます。

上位入賞の期待に対し、「民謡は上手く歌うだけではない、聞き手に情景が思い描かれなくては会場の人たちに雄大な阿蘇の情景が届くよう、私自身、阿蘇の山に立つて歌っているつもりで歌います」と坂梨さん。「『阿蘇干草切唄』の良さを多くの人に伝えることが第一です」と、阿蘇市民の皆さんにも親しまれることを望まれています。

菅原神社例大祭の余興で地づき唄を披露した時の様子



「阿蘇干草切唄」

- 一、ハアー今日は刈干野々口あいた
 - 二、ハアー今日の煙りは南郷か阿蘇か
 - 三、阿蘇にたをれりや又雨がハアー雨がたたれば又十日十夜
 - 四、もどりや子供がにげ廻るハアー西の黒いのは雨ではないか
- 雨じゃござらぬよな曇り